

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-01-19

【図書紹介】 『新・カント読本』 牧野英二編  
法政大学出版局 二〇一八年

KOINUMA, Hirotsugu / 小井沼, 広嗣

---

(出版者 / Publisher)

法政哲学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

HOSEI TETSUGAKU : BULLETIN OF HOSEI SOCIETY FOR PHILOSOPHY / 法政哲学

(巻 / Volume)

16

(開始ページ / Start Page)

88

(終了ページ / End Page)

88

(発行年 / Year)

2020-03-30

【図書紹介】

『新・カント読本』

牧野英二編 法政大学出版局 二〇一八年

小井沼 広嗣

編者の「まえがき」によれば、本書は「二十一世紀のグローバル化時代におけるカント哲学の意義と課題」に狙いを定めて企画されたものである。前作となる『カント読本』（一九八九年）の刊行からおよそ三十年が経過し、その論述内容がいささか古びてきた状況を踏まえ、国内外における最先端のカント研究の成果を組み込む仕方での新たに企画、出版されたのが本書である。

本書は三部から構成されている。第一部「カント哲学のグローバルな展開」では、ドイツ、フランス、英米圏の最新の研究動向のほかに、日本ではほとんど知られていない、ロシア、スペイン語圏、イスラーム圏、漢字文化圏におけるカント研究の状況も紹介されている。

第二部「カント哲学の新しい読み方」では、批判期の著作における今日的な論争点を扱った諸論考に加え、前批判期の思想と晩年の『オプス・ポストウム』に関する諸論考が収められている。

第三部「現代の哲学からみたカント哲学」では、生命倫

理、死生学、正義論、平和論、コミュニケーション論、言語分析哲学といった今日的な研究領域との関連から、カント哲学のもつ現代的な意義や可能性が論じられている。

本書はそのほかに、他の分野の碩学による「コラム」、巻末には物語風の「カント年譜」、「カント関連文献目録」が収められている。執筆陣の中には、重鎮から新鋭まで、幅広い年代の研究者、さらには海外の研究者も名を連ねており、本学会会員からは、編者の牧野英二氏のほかに、菅沢龍文氏、鶴澤和彦氏、小野原雅夫氏、近藤秀氏、相原博氏、大森一三氏が執筆に携わっている。

カント哲学の入門書や解説書は多く出版されているが、本書の特色と魅力は、何といても《現代に生きるカント哲学》を前面に打ち出している点にある。地道なテキスト解釈は古典的哲学を学ぶ者に不可欠な基本的作業であるが、それだけにとどまるべきではない。時代の抱える諸問題に応えてこそ、哲学研究は真に実りあるものとなる。そうした意味で、本書は、カント哲学に関心をもつ人、これからカント研究を志す人ばかりでなく、哲学研究の今日的な意義や役割を考えるすべての人にとって、大きな刺激を与えるはずである。